



日本英語交流連盟
The English-Speaking Union of Japan

【English-Speaking Union: International Public Speaking Competition 2017】

国際基督教大学教養学部アーツ・サイエンス学科 2年

内田宇宙

私は日本英語交流連盟のお力添えの元、2017年5月8日から12日にかけての5日間、イギリスはロンドンで行われた **International Public Speaking Competition**（以後 **IPSC**）に参加させていただきました。2日間にわたって開催された大会のほかにも、ワークショップやイギリス観光等があり、それらを通して各国からの代表者たちと意見を交換しあうことができました。刺激の多かったこの5日間は、かつてないほどの成長をすることができた、素晴らしい5日間でした。

「今、予選の原稿を考えているんだけど、オスカー・ワイルドが言った言葉についてどう思う？」これは大会期間中、ともに部屋を過ごすこととなったモンゴル人のルームメイトから突然された質問でした。これには度肝を抜かれました。自己紹介をし、しばらくお互いの文化やバックグラウンドを話し合った後すぐの質問であったということもありますが、それよりも、数日後に行われるスピーチの原稿をまだ作り続けていた、という事実に驚きました。また、さらに驚くことに、彼のほかにも多くの参加者が大会当日まで改稿を続けていました。中には私が提案した案を自身のスピーチに組み込んで発表する強者もいました。私は今までいくつかのスピーチコンテストに出場してきましたが、日本における大会ではすべての参加者が原稿を用意し、それを暗記し、発表していました。その経験から考えると、直前まで原稿を書き直しているのは考えられないことでした。しかし、最後まで考えていたどの参加者も自信をもって自身のスピーチをしており、私は驚くばかりでした。決勝大会に進出した7名についてはスピーチの内容だけでなく、デリバリーも群を抜いており、体全体を用いることで聴衆を引き付ける、魅力的なスピーチでした。これが世界に求められているレベルなのだ、と深く思い知らされました。日本では原稿を暗記して演台に立ってスピーチをすることがスピーチコンテストの主流であり、そのため、日本の学生はそうのようにスピーチを行う人が大半であると思います。しかし、世界の場ではそれだけでは戦ってはいけません。スピーチの流れだけを暗記し、時と場に応じて対応できる臨機応変さ、そしてそれを可能にする英語力も不可欠なのだと感じました。物事を日々英語で考える癖をつけておくと良いかもしれません。また、スピーチを興味深い内容にするために、メモを常に持ち歩いて気になったニュースやふとした出来事を押さえておくとさらにいいと思いました。

驚いたことといえば、アクティビティや大会外での参加者の様子に、日本人（私の周りだけかもしれませんが）との違いが大きくあったことにも驚きました。大学生活では、何人かで集まって話をする際に、最近の互いの出来事などといった他愛ない話をするのですが、**IPSC**で私が目にした光景は日本でいつも目にする光景とは異なっていました。参加者同士が哲学や宗教、世界の情勢などを語り合っており、非常にレベルの高い意見交換が行われていました。彼らは自国のことを事細かく説明できるほどに知っているのみならず、他国についても強い興味関心を抱き、そして深い知識を備えていました。本当にレベルの高い参加者が集まっているのだ、と感銘を受けました。



日本英語交流連盟
The English-Speaking Union of Japan

IPSCは、世界の広さ、己の未熟さを知ることができ、本当に刺激的な5日間でした。大会を通してスピーチの仕方について考えさせられたとともに、己の教養のなさを痛感しました。この素晴らしい経験を糧に、「スピーチ力」の向上を図るとともに、「教養力」のある人間になるべく精進していきたいと思えます。

最後に、このような貴重で素晴らしい機会を与えてくださり、スピーチのご指導までしていただいた日本英語交流連盟 沼田会長、鈴木常務理事に、この場をお借りしてお礼申し上げたいと思えます。ありがとうございました。ここで得た経験を生かして、さらに成長をしていきたいと思えます。